



# 加治川小だより

新発田市立加治川小学校 第11号

新発田市上今泉 366 番地 1 Tel 33-2435

児童数 280 人 (H31. 3. 14 現在)

ホームページアドレス <http://kajikawa-e.shibata.ed.jp/>

## 平成の時代が教えてくれたもの

校長 猪俣 伸

早いもので3月も中旬を迎え本年度も残り数週間となりました。もうすぐ47名の6年生が卒業の日を迎えます。先週から校長室で6年生と会食をしています。みんな明るい笑顔で中学校への思いや夢を語り一人一人が輝いて見えました。また、先月行いました「六送会」では、在校生が6年生に感謝の気持ちを伝えようと招待状やくす玉作り、ステージ装飾等、各学年が役割分担をして一生懸命取り組みました。6年生の発表も素晴らしく、とても感動した日となりました。

さて、平成の時代が間もなく終わろうとしています。今から30年前、ベルリンの壁が崩壊し国内では初めて消費税3%が導入されたのが元年でした。その後、東日本大震災や阪神淡路大震災、豪雨水害など自然災害の恐ろしさを思い知らされました。

一方、情報通信技術の発達は見張るものがありました。街から公衆電話ボックスが消え携帯電話の普及、TwitterやFacebookをはじめとするSNS、LINEなどネット社会となり、人と人とのコミュニケーションの在り方が大きく変容しました。

学校教育も大きく変わりました。少子化に伴い統合や閉校が進み、県内の小学校数は平成元年の715校から平成30年度は460校にまで減少しています。ピークは昭和29年の1055校（\*学校推移調査資料による）

授業日数も完全週5日制（土曜日が休み）となったこともあり、平成元年の約250日から現在は約200日になっています。単純に学校で過ごす時間を10時間として計算しても、学校で過ごす時間よりも家庭で過ごす時間の方が遙かに多くなり、改めて学校以外での過ごし方が大切になってきていると言えます。

また、パソコン、タブレット、電子黒板の導入等、情報化時代とともに大きく教育環境が変化し、2020年から始まる情報機器を活用した小学校プログラミング教育は目の前に迫ってきています。

反面、いつの時代になっても、どのように文化が進歩しても、変わらない「子どもらしい光景」があります。朝、登校してくると真っ先に体育館にいて鬼ごっこをしたりドッジボールをしたりして友達と遊ぶ姿。校庭に雪が積もると元気に外に飛び出して雪玉を投げたり雪だるまをつくったりする姿。なわ跳びのシーズンになると短なわ跳びや長なわ跳びを一生懸命頑張る姿等々。このような光景は、平成元年の子どもたちも、現在の加治川小の子どもたちも、そして、昭和時代も含め、これまで私が勤務した全ての学校の子どもたちに当てはまる共通した光景です。

近年、休みの日、外で遊ぶ子どもたちの姿はあまり見かけなくなりましたが、本来、子どもたちのもっている一番の楽しみはゲーム機器で遊ぶことよりも、たくさん子どもたちと、自然にふれる遊びを楽しんだり活動したりする姿ではないかと思えます。

子どもたちが「たくさん友だちと楽しく遊びたい」という思いを、これからの教育活動の中にたくさん取り入れ、本来もっている子どもの特性や関わり方を十分に引き出していく必要があると考えています。

最後になりましたが、本年度、保護者の皆様、地域の皆様をはじめ多くの関係機関の皆様からご支援とご協力をいただきました。節目の創立10周年行事の活動等を通して子どもたちの活躍や成長をいろいろな場面で実感することができました。今年度最終号の紙面から、保護者の皆様、地域の皆様にご心より感謝申し上げます。有り難うございました。

新年度も新しい時代の移り変わりとともに、気持ちを新たにして、全職員が鋭意努力していきたいと思っています。次年度もご支援とご協力の程、よろしくお願い致します。